

- ☒ 話すこと ☒ 書くこと ☒ 個に応じた教材の作成や指導の充実 ☒ 授業での活用 ☒ 家庭学習での活用
☐ パフォーマンステストでの活用 ☐ 課外活動での活用

実践のポイント

課題追究型の単元の学習過程におけるAI活用と教師の授業中の役割の明確化

実証概要

<校数>1校(中学校)436名 *「協力校」(Transableの機能開発のため):3校(高等学校)680名
 <学年>中学校:第1、2、3学年 <アプリ等>Transable(杉山滉平氏)、GELP(ベネッセ・コーポレーション)
 <AI機能について>Transableは「ハイブリッド型」でフィードバックやポートフォリオ機能を持ち主としてライティング学習に使用する。なお、言語活動中心の授業支援ツールとしての新機能も本事業の中で並行して行う。GELPは「目的特化型」で、主として家庭学習や授業中の個別学習に活用する。

AIの効果的な活用方法や取り組み (AI英語モデル校事業)

● 課題追究型の単元学習、Teacher Talkの豊富な授業スタイルとAIの個別支援の相性のよさ

- ・授業開始直前・後にGELPを活用 → 授業や対面のやり取りに対するレディネスを高めた。
- ・個別課題追究のためのブースを設定(Transable & GELP、ALTからチェックを受ける、JTEに相談するなど) → 課題に応じた学習方法の選択(の1つがAIツール)
- ・ある程度の個別支援(語彙・文法)をAIが担当 → 英語教師はモデル提示や生徒との英語によるやり取りに集中できた。

● 「思考力・判断力・表現力」育成をねらう言語活動における支援としてのAI活用

- ・Transableの新機能を使用した指導の試行 → 「思考力・判断力・表現力」を育成するための言語活動の「目的や場面、状況等」にある程度応じたフィードバックが可能で、活動手順をある程度規定するTransableの新機能が、ピアフィードバックの支援になる可能性がある。(※来年度の課題)

実践成果の検証結果 (AI英語モデル校事業)

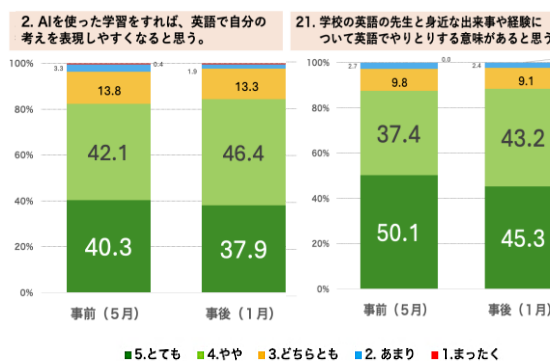
① 児童生徒の英語力の変化

・中3GTECスコア
4技能 5月:A1.3→11月:A2.1
(スコア:81アップ)

② 教師の指導の変化

- ・その教室に合った、personalized & localized Teacher Talk。
- ・「ALTの役割」と「形成的な評価」に対する意識の高まり。
- ・ゴールの姿を記述文ではなく、具体的な英語の姿で表せた。

③ 児童生徒の関心・意欲の変化



学校の先生が英語でやり取りをする意味についての生徒の声

「生徒にあったスピードなど工夫して英語を伝えてくれるから、**1番わかりやすく英語を学べる。**」
 「授業で先生が実際に経験したことを話してくれたため、**英語が身近な存在だということに気づいた。**」
 「AIなどではできない、**人との対話特有の緊張感？**を味わえる。」

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み (AI英語活用リーダー事業)

● 公開研究授業の積極的な公開・小中高及び特別支援学校一斉研修での中間報告

AI活用リーダーを含む英語科教員が年間4回の公開授業を行い、課題追究型の英語の授業におけるAIツールの活用について提案するとともに、授業後の研究協議を行った。また、県主催の夏季研修で生徒のエンゲージメントを高める指導の工夫の1つとしてTeacher Talkの工夫を伝え、AI活用時代の英語教師の役割について事業で得られた知見を共有した。

事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み

● 4つの課題:プラットフォーム・英語力検証・プロセスの見取り・フィードバックの工夫

- (1) ツール活用ガイダンス、活用例を共有するプラットフォームづくり
- (2) 英語のライティング力の現状・伸長の検証および指導法の分析・改善
- (3) 端末の録画機能を活用して個別の学習者の端末の使い方を分析し、活用法の検討やアプリ開発
- (4) 「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」に関するpeer reviewの方法検討(AI含む)

参考資料

